

サステナビリティ

マテリアリティ

脱炭素社会への貢献

脱炭素社会への貢献

基本的な考え方

「三機工業グループ環境方針」に基づき、サプライチェーンを含めたあらゆる事業活動の場において地球環境の保全に努め、脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現を目指しています。特定したマテリアリティの中でも「脱炭素社会への貢献」を最優先課題として重点的に取り組んでいます。

三機工業グループ環境方針 <https://www.sanki.co.jp/sustainability/environment/management/>

TCFD提言に基づく情報開示 <https://www.sanki.co.jp/sustainability/environment/tcfd/>

脱炭素社会への貢献 <https://www.sanki.co.jp/sustainability/environment/decarbonization/>

TCFD提言に基づく情報開示

三機工業グループは、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言に賛同し、開示フレームワークに基づく気候関連情報を開示しています。

当社グループは、特定したマテリアリティの中でも「脱炭素社会への貢献」を最優先課題と位置づけ、リスクと機会の両面から気候変動問題をグループ全体のサステナビリティマネジメント、リスクマネジメントに組み込んで対応しています。リスクと機会についてはシナリオ分析を実施し、サステナビリティ委員会ではその影響度を評価、リスク管理委員会と連携しています。また、環境にまつわる情報開示・評価を行う国際的な非営利団体CDPから、気候変動分野における最高評価である「Aリスト」企業に2022年度より3年連続で選定されています。

TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)

CDP

CDP「気候変動Aリスト」に3年連続で選定
<https://www.sanki.co.jp/news/release/article595.html>

P. 18

サステナビリティ経営とマテリアリティ(重要課題)

P. 76

リスクマネジメント推進体制

戦略

気候変動が事業に与える中・長期的なインパクトを把握するためにシナリオ分析を実施し、抽出したリスクと機会については、経営ビジョン“MIRAI 2030”や「中期経営計画 2027」に盛り込み、経営計画と

一体化させて取り組みを進めています。

シナリオ分析・財務インパクト評価

1.5℃シナリオ^{※1}および4℃シナリオ^{※2}において政策や市場動向の変化による移行リスクと、災害などによる物理リスクを推測しました。各シナリオに対して当社グループに対するリスク・機会を特定し、財務インパクトを評価して、その影響度を大・中・小の3段階で表現しています。

※1 気候変動に対する厳しい対策が取られて全世界で2050年のネットゼロが実現し、2100年時点において産業革命時に比べ気温上昇が1.5℃以内に抑制されるシナリオ

※2 気候変動に対する厳格な対策が取られず、2100年時点において産業革命時に比べ4℃程度気温が上昇するシナリオ

リスクと機会

<https://www.sanki.co.jp/sustainability/environment/tcfd/>

指標と目標

当社グループは、温室効果ガス排出量^{*}を最も重要な気候変動関連指標としています。長期的な目標として「SANKIカーボンニュートラル宣言」を行い、達成に向けた移行計画を中期経営計画に組み込んでいます。2024年10月には、パリ協定が定める水準と整合した目標(SBT)を認定する機関「SBTイニシアチブ」から2030年温室効果ガス排出量の「1.5℃水準目標」と2050年温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「ネットゼロ目標」の認定を取得しました。経営ビジョン“MIRAI 2030”における移行計画は、認定取得した削減目標よりもさらに厳しいものになります。

※事業者自らの排出だけでなく、事業活動に関係するあらゆる排出を合計した排出量を指しており、Scope1,2(自社活動による排出)とScope3(上流の調達から下流の使用・廃棄までサプライチェーン全体)に分類

三機工業グループの温室効果ガス削減目標

| スコープ | 基準年度 | 2024年度実績 | 2030年目標 | 2050年目標 |
|----------|--------|----------|-------------------------|------------|
| Scope1,2 | 2020年度 | 41%削減 | カーボンニュートラル [*] | カーボンニュートラル |
| Scope3 | 2020年度 | 52%削減 | 25%削減 | カーボンニュートラル |

※削減内訳は、70%削減+吸収事業支援によるクレジット活用30%

温室効果ガス排出量

| 区分 | | 排出量(t-CO ₂) | | | 増減率(%) | |
|----------|---------------------|-------------------------|-----------------|-----------|-----------|----------|
| | | 基準年度 2020年度 | 実績 [*] | | 対 基準年度 | 対 前年度 |
| | | | 2023年度 | 2024年度 | | |
| Scope1,2 | | 9,382 | 5,504 | 5,516 | ▲41 | +0.2 |
| Scope1 | 所有または支配する事業からの直接排出量 | 2,956 | 2,521 | 2,587 | ▲12 | +3 |
| Scope2 | 購入した電気・熱の使用に伴う間接排出量 | 6,426 | 2,983 | 2,929 | ▲54 | ▲2 |
| Scope3 | | 6,395,143 | 4,076,450 | 3,082,223 | ▲52 | ▲24 |
| カテゴリ1 | 購入した製品・サービス | 349,779 | 474,682 | 497,693 | | |
| カテゴリ11 | 販売した製品の使用 | 6,027,209 | 3,584,779 | 2,568,384 | | |
| 合計 | | 6,404,525 | 4,081,954 | 3,087,739 | ▲52 | ▲24 |

*対象範囲：三機工業グループ *全カテゴリの排出量実績値は、ホームページにて掲載しています。

※ 実績：第三者機関による保証を受けています。

独立第三者の保証報告書

https://www.sanki.co.jp/sustainability/environment/tcfd/doc/assurance_report2024.pdf

温室効果ガス排出量データ

<https://www.sanki.co.jp/sustainability/esgdata2025/environment.pdf>

温室効果ガス削減目標のSBT(Science Based Targets)認定を取得

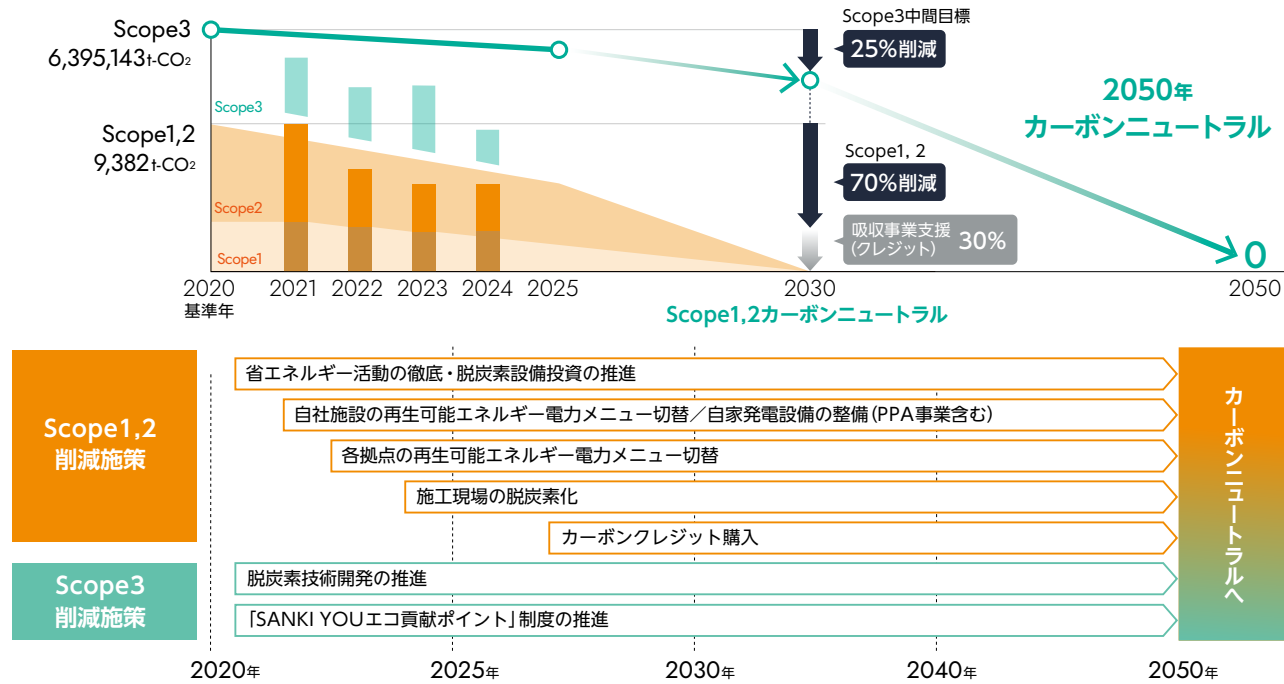
<https://www.sanki.co.jp/news/release/article569.html>

カーボンニュートラルに向けたロードマップ

当社グループは、「SANKIカーボンニュートラル宣言」においてScope1,2は2030年、Scope1,2,3は2050年のカーボンニュートラル達成を掲げています。具体的には、2030年までにScope1,2の排出量を70%削減(2020年度比)し、残りの30%は吸収事業支援(クレジット活用)によって削減することで、Scope1,2のカーボンニュートラル実現を目指しています。さらに、Scope3については2030年までに25%削減(2020年度比)を目標として掲げています。

主な削減の取り組みとして、Scope1,2では「省エネルギー」「再生可能エネルギー」の2つを主軸に進め、Scope3では、より排出量の少ない設備・製品の提案を推進する「SANKI YOUエコ貢献ポイント」制度を強化しており、2030年に納入設備製品の排出削減量21%増(対2021～2023年度平均)目標を掲げて取り組んでいます。

三機工業の温室効果ガス排出量と2050年カーボンニュートラルに向けたロードマップ



Scope1,2削減の取り組み

工場やオフィス、施工現場など、あらゆる事業活動の場において効果的な施設運用と省エネルギー活動を通じて、継続的に排出量削減に取り組んでいます。自社施設である三機テクノセンターおよび大和プロダクトセンターには自社技術を含めた省エネルギーシステムを複数導入し、エネルギー使用削減に努めるとともに、太陽光発電設備を導入しています。2024年度も他拠点において使用電力の再エネ契約を進めるなどの取り組みにより、2024年度の当社グループのScope1,2合計排出量は2020年度比41%減を達成しました。

・安定的なクレジット調達

自らの努力により可能な限り温室効果ガス排出量を削減した上で、2030年Scope1,2カーボンニュートラルを達成するためにカーボンプレジットの活用を予定しています。クレジットの価格高騰や供給不足などのリスクを回避すべく先行投資型の長期契約等によるクレジットの調達を行います。

陸別町・バイウィルと森林J-クレジットに関する連携協定締結
<https://www.sanki.co.jp/news/release/article630.html>

Scope3削減の取り組み

当社グループのScope3排出量のうち、カテゴリ11が約8割と大部分を占めています。このため、当社が提供する省エネルギー・創エネルギー設備・製品の排出量となるカテゴリ11の削減、すなわちお客さまの温室効果ガス削減を目指しています。

2024年度のScope3排出量は2020年度比52%減と2030年目標を超える進捗となっています。

Topics SANKI YOUエコ貢献ポイント制度

当社グループは、お客さまにCO₂削減につながる提案を行い、採用された場合はその削減量をエコ貢献ポイントに換算して、環境保全活動を支援する「SANKI YOUエコ貢献ポイント」制度を運用しています。2024年度の受注(連結)は311件で、67,556トンのCO₂削減量となりました。また、累計年間CO₂削減量は約43万トン、環境保全活動として累計約35,000本の植樹を行っています。

SANKI YOUエコ貢献ポイント
<https://www.sanki.co.jp/sustainability/sanki-you-eco-point/>



サステナビリティ



マテリアリティ

新たな
社会価値の創造

循環型社会への挑戦

基本的な考え方

三機工業グループは、廃棄物の抑制やリサイクル等の推進に加え、事業を通じた循環型社会の構築に向けて挑戦し続けています。2023年度より経済産業省が主導するサーキュラーパートナーズに参画し、当社独自の技術力を活かした取り組みを強化しています。

三機工業グループ環境方針
<https://www.sanki.co.jp/sustainability/environment/management/>

循環型社会への挑戦
<https://www.sanki.co.jp/sustainability/environment/resource/>

事業を通じたサーキュラーエコノミーへの挑戦

三機工業グループは、事業活動を通じたサーキュラーエコノミーへの挑戦を続け、環境負荷を最小限に抑えつつ、サステナブルな世界の実現への貢献を目指しています。

下水道分野では、循環型バイオマス資源として下水汚泥を有効利用するため、燃焼灰の肥料化^{*1}や昆虫を利用した下水汚泥の肥料化および飼料化^{*2}の研究開発を進めており、いずれも国土交通省のプロジェクトとして採択されています。燃焼灰の肥料化については、肥料登録と社会実装を目指し、廃棄物の有効利用と資源循環の促進に貢献します。

また、「中期経営計画 2027」の事業戦略の一つとして、海外パートナーとの連携による水処理技術・製品のアジア展開を目指しています。経済産業省のプロジェクトに採択されたタイ王国における省エネ型排水処理施設導入調査事業^{*3}は、経済成長の著しい新興国での社会インフラ整備を支援しています。本事業で得られた知見を活かし、省エネルギー・創エネルギーなど付加価値の高い技術を搭載した排水処理施設を提供し、循環型社会と脱炭素社会の両方に貢献しています。

^{*1} 下水汚泥焼却灰の低コスト肥料化技術に関する調査事業：国土交通省「令和4年度下水道革新的技術実証事業」のFS(Feasibility Study)調査に採択
^{*2} 昆虫を利用した下水汚泥の飼料化と肥料化の研究：国土交通省「令和5年度下水道応用研究」に採択
^{*3} タイ国内における排水基準・規制や工業団地の運営事情、排水処理施設の情報収集などを実施し、省エネ型排水処理施設の商業化の実現可能性を調査：経済産業省「令和5年度補正グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金」のFS事業に採択



サーキュラーパートナーズ

産業廃棄物の現状

施工現場より排出される産業廃棄物については、当社グループが直接管理する元請現場の産業廃棄物排出量を集計し、実態を把握しています。また、廃棄フロン・ハロンを適正に処理しており、2025年6月には、一般財団法人日本冷媒・環境保全機構(JRECO)が主催する第4回「フロン対策格付け」においてAランクを取得しました。プラスチックについても、プラスチック資源循環法に基づき排出の抑制、再資源化を推進しています。このほか、有害物質の処理についても法令に基づき適切に処理しています。

JRECOの第4回「フロン対策格付け」においてAランクを取得
<https://www.sanki.co.jp/news/release/article621.html>

水使用量の抑制

当社グループの所有施設では、水使用量の定期的なモニタリングを行うとともに、水資源の効率化を継続的に検討し、節水を考慮した設備投資の実施も含め、使用量の低減を図っています。水使用量の大半は、事務所・研修宿泊所の生活用水が占めています。三機テクノセンターでは、井水を併用することで上水の使用を抑制しています。2024年度は三機テクノセンターへの入居部門数の増加に伴い人員が増えたことで、水使用量は前年度よりも6%上昇しました。今後は、事業拡大と水使用量の抑制の両立を図っていきます。

*対象範囲：三機テクノセンター・三機大和ビル、大和プロダクトセンター、那須テクノステーションほか出張所含む8拠点

水使用量
<https://www.sanki.co.jp/sustainability/esgdata2025/environment.pdf>